

荒川右岸堤（対岸堤） R3荒川右岸古谷上築堤その2工事

荒川の水を下流へ安全に流すため、本川の荒川と支川の入間川を区分する堤防工事です。



R3荒川右岸古谷上築堤その3工事
（株）ケーシーエム

R3荒川右岸古谷上築堤その2工事
L=200m 名倉建設(株)

R3荒川右岸古谷上築堤その1工事
金杉建設(株)

i-Construction

全力！建設DX

国土交通省関東地方整備局

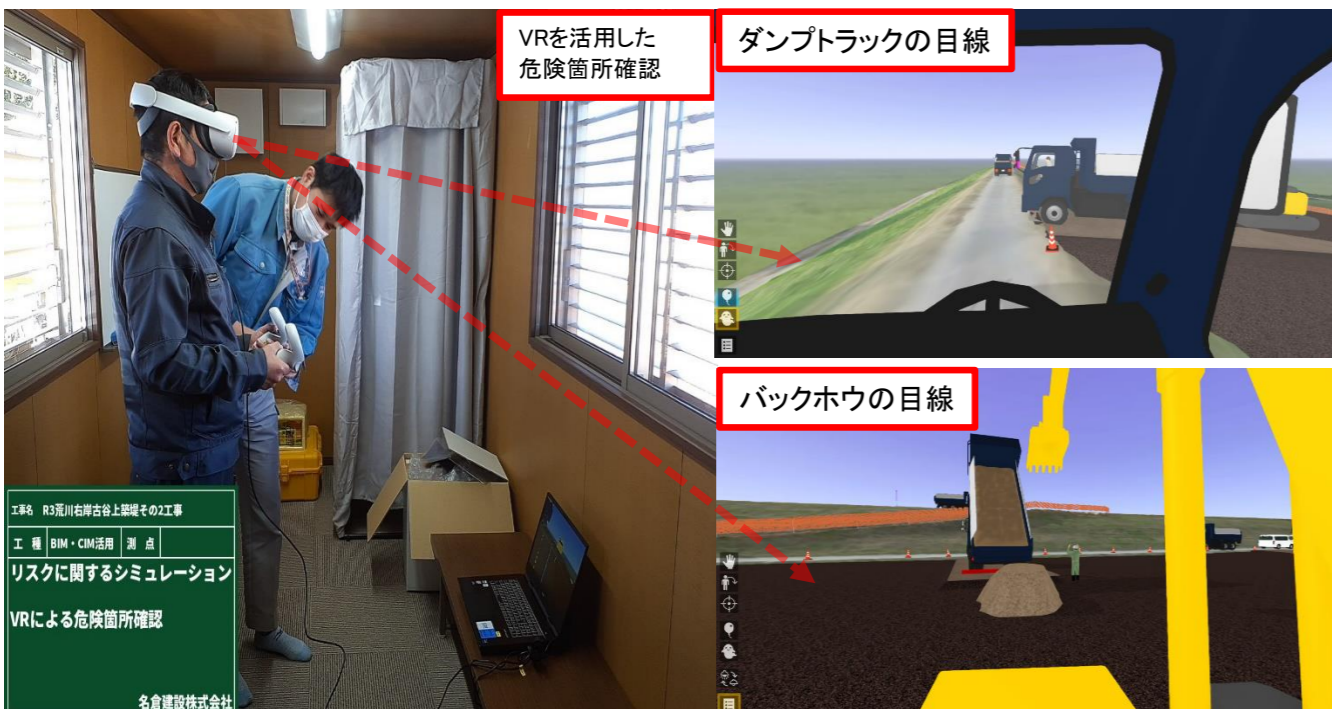
守ろう暮らし 創ろう空間 ~荒川第二・三調節池~
荒川調節池工事事務所

CONSTRUCTION

名倉建設（株）

現場代理人/
監理技術者
野口 晃弘

担当技術者
赤星 雄大



VRを活用した
危険箇所確認

ダンプトラックの目線

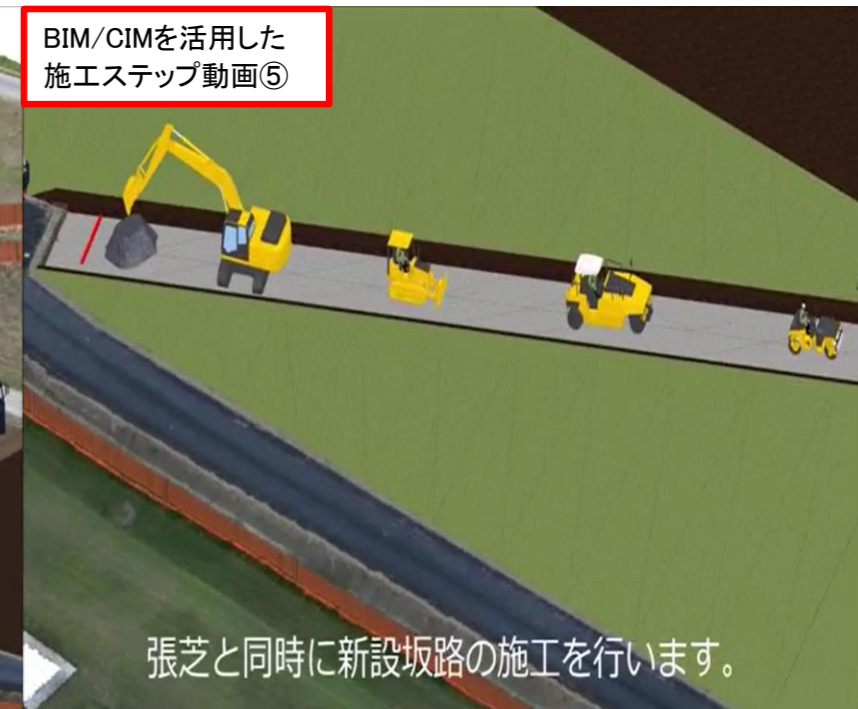
バックホウの目線

工事名 R3荒川右岸古谷上築堤その2工事
工程 BIM・CIM活用 測点
リスクに関するシミュレーション
VRによる危険箇所確認
名倉建設株式会社



BIM/CIMを活用した
施工ステップ動画③

No.33+25m付近～No.35m付近まで
段切り・盛土を施工します。

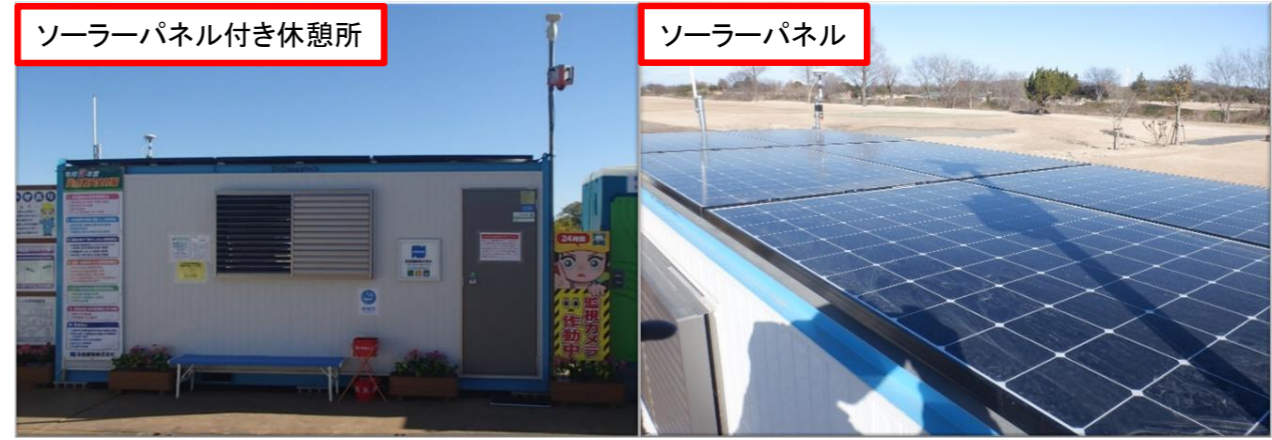


BIM/CIMを活用した
施工ステップ動画⑤

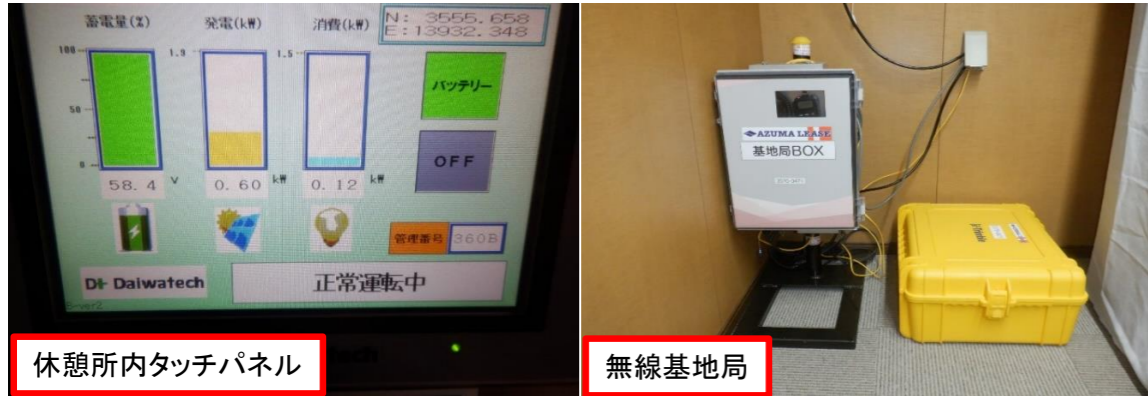
張芝と同時に新設坂路の施工を行います。

どうやって土を盛っているのか？

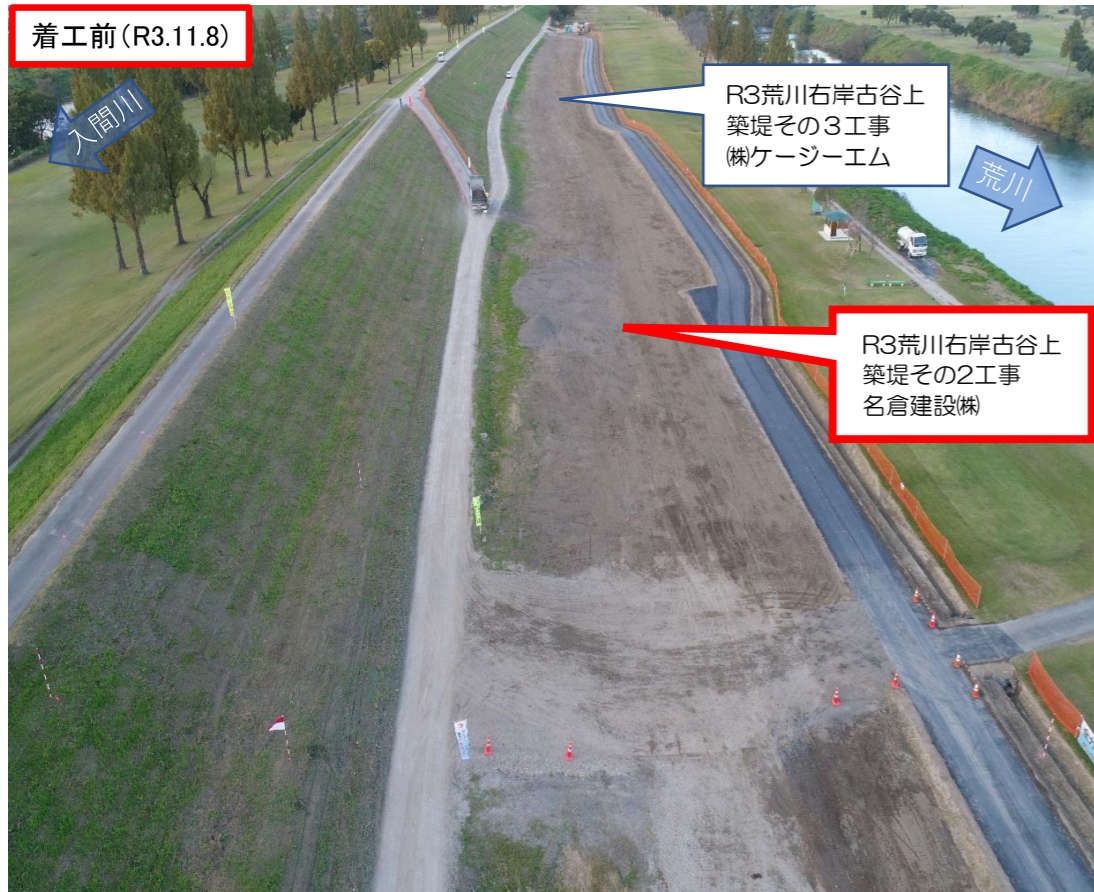
盛土工という工事をしていますが、ただ土を上から積んでいるわけではありません。しっかりと土を固めて高くしていかないと崩れてしまう為、ブルドーザで上から締め固める必要があります。現在の工事ではその工程をコンピュータとGPSの力を借りて行います。しかし、川に挟まれ、近くに建物も建っていないこの工事現場には電気が通っていません。そこで当社ではソーラーパネル付きの休憩所を設置する事にしました。上から見ると屋根全体がソーラーパネルになっているのがよくわかると思います。



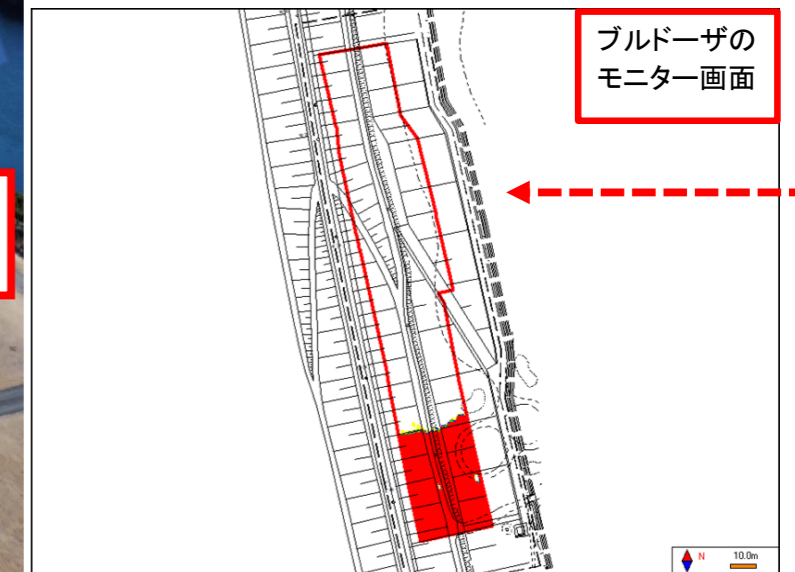
そして作った電気でGPSの無線基地局を動かします。休憩所の中にはバッテリーが内蔵されていて、タッチパネルでバッテリーの状態を確認することが出来ます。軽油を使う発電機を必要としないので温室効果ガスの削減によるカーボンニュートラルにも貢献しています。



このアンテナでブルドーザの座標データを無線基地局から衛星でやり取りして作業を行っています。小さいアンテナですが、500m近く離れていても充分電波が届きます。



ブルドーザには付属のモニターに位置情報が表示されていて、今の地面の高さや、締め固めた場所が色や数値でわかるようになっています。



30cmを一層として土を盛り、入念に締め固めてようやく一層が出来上がります。本工事ではこの工程を20層目まで繰り返します。